

外国語教育メディア学会（LET） 第 104 回（2025 年度春季） 中部支部研究大会 プログラム



大会テーマ：

「生成 AI で拓く言語教育の新たな地平」

日時 2025 年 5 月 24 日（土）10:00-17:00

会場 椋山女学園大学 星が丘キャンパス 外国語学部棟
〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町 17 番地 3 号

研究大会実行委員長 児玉 恵太（椋山女学園大学）

主催 外国語教育メディア学会（LET）中部支部

後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会

問い合わせ先：外国語教育メディア学会（LET）中部支部事務局

事務局長 工藤 泰三（名古屋学院大学）taizo@ngu.ac.jp

参加申込締切は 5 月 20 日（火）です

大会詳細はこちらから（<https://www.letchubu.org/>）→



時 程

9:30 受付開始

10:00 - 10:05 開会式 【第 1 室】

司会：工藤 泰三（名古屋学院大学）

支部長挨拶：西尾 由里（中部支部支部長・名城大学）

実行委員長挨拶：児玉 恵太（相山女学園大学）

10:05 - 11:45 講演 【第 1 室】

司会・講師紹介：小島 ますみ（名古屋大学）

講師：李 在鎬 氏

（早稲田大学大学院 日本語教育研究科）

「生成 AI は文章の proficiency をどのように捉えているか」



語学教育において学習者の習熟度（proficiency）向上は究極の課題であるが、その評価方法には多くの問題が残されている。特に、「話す力」と「書く力」を適切に評価し、教育に活用することが重要となるが、これらの能力は主観的評価（評価者の内省に基づく評価方法）に依存するため、評価の信頼性や妥当性に課題がある。私の科研グループ（<https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-24K00078>）では、この問題に対して生成 AI を活用することを提案してきた。しかし、そもそも生成 AI が書き言葉における習熟度をどのように捉えているのかを明らかにする必要がある。そこで本研究では、ChatGPT に依頼し、習熟度（上級・中級・初級）別に各 50 編、合計 150 編の意見文を疑似

的に生成した。その際、上手な作文だけでなく、下手な作文も生成させ、それらの違いを計量テキスト分析によって検討した。その結果、ChatGPT が作文の習熟度を調整する際、文字種や文長に関連する要素を用いている可能性が示唆された。

【略歴】（早稲田大学研究者データベースより）

京都大学人間環境学研究科認知情報講座博士後期課程修了（博士（人間環境学））。情報通信研究機構自然言語グループ専攻研究員、国際交流基金日本語試験センター研究員、筑波大学人文社会系准教授等を歴任ののち現職。計量国語学会理事、産業日本語研究会運営委員。

11:45 – 13:30 昼食

(各自でお済ませください。ランチョンセミナーにご参加いただきながら召し上がっていただくこともできます)

.....

11:50 – 12:20 中部支部評議員会【評議員会室】

★評議員の皆様はご出席ください

12:25 – 12:45 中部支部総会【第1室】

★中部支部会員の皆様はご参加ください

.....

12:50 – 13:30 賛助会員プレゼンテーション（ランチョンセミナー）

	【第1室（417教室）】 司会：工藤 泰三（名古屋学院大学）	【第2室（416教室）】 司会：高橋 美由紀（愛知教育大学）
12:50-13:00	株式会社エル・インターフェース	株式会社桐原書店
13:00-13:10	株式会社金星堂	株式会社教育測定研究所
13:10-13:20	株式会社アルクエデュケーション	株式会社 EnglishCentral JAPAN
13:20-13:30		iJapan 株式会社

.....

13:35 – 15:15 研究発表・実践報告（発表概要は pp. 5-6 をご参照ください）

【第1室（417教室）】 司会：坂東 貴夫（東洋大学）	【第2室（416教室）】 司会：宮崎 佳典（静岡大学）
13:35 – 14:05 【研究発表】 小中学生の英語受容語彙サイズの発達：音声語彙と文字語彙の比較と関連性 江口 朗子（立命館大学）	13:35 – 14:05 【研究発表】 学習者コーパスを用いた英語自他交替動詞の受動態に関する誤用分析 加藤 琢也（名古屋大学大学院生）
14:10 – 14:40 【研究発表】 生成 AI を使った（疑似）学習者作文コーパス作成の試み 今井 新悟（合同会社 Logos）	14:10 – 14:40 【実践報告】 ライティングとシャドーイングを融合した自主学習支援ウェブアプリの開発 古泉 隆（名古屋大学）
	14:45 – 15:15 【研究発表】 小学校外国語科における学習者中心の学びを支えるための指導：「話す（発表）」の活動におけるタブレット端末とワークシート（紙）を活用して 高橋 美由紀（愛知教育大学）

.....

15:20 – 16:50 シンポジウム 【第 1 室】

「AI 技術の進化と実践的な活用

–システム開発・スピーキング指導・ライティング指導の新たな挑戦–

シンポジアスト：石村 友二郎 氏（文京学院大学）

Jason Shigemura 氏（AI & Blockchain Developer）

小島 ますみ（名古屋大学）

コメンテーター：李 在鎬 氏（早稲田大学大学院）

<シンポジウム概要>

生成 AI の進化が教育に新たな可能性をもたらしています。本シンポジウムでは、AI を活用した英語学習支援や実践的なシステム開発の取り組みを通じて、教育現場での活用と課題を考察します。

石村 友二郎 氏「あなたはどうか変える？ ？ 教学 IRer が見た進化」

英語教員の専門家ではない私が、Jason 氏と共に英語学習用「AI 先生」を開発し、実際の現場で試みました。その結果、学生が AI にどう向き合い、どんな成果が得られたか、そして現場で直面した課題を共有します。今後の改良点や、AI を活用した教育で目指すべき方向について考えます。

Jason Shigemura 氏「生成 AI の可能性と共創への挑戦」

生成 AI の進化により、教育現場での応用が急速に進んでいます。本セッションでは、AI 先生の開発経緯や技術的特徴を詳しく紹介し、教育における AI の可能性を探ります。また、最新の AI トrendやニュースを交えながら、今後の教育現場への影響について考察します。さらに、参加者と共に AI を活用した教育の未来を創るために、発表者が実現したいビジョンや協力への呼びかけを行いたいと思います。

小島 ますみ

「ChatGPT と DeepL Write を活用した英語ライティング・ディスカッション指導の実践」

本発表では、大学生を対象に、ChatGPT や DeepL Write を活用した英語ライティング・ディスカッション指導の実践を紹介します。AI ツールが英語力や学習意欲の向上にどう関わるか、また教員のフィードバックはどのように変わるのかを、アンケート結果等をもとに考察します。

.....

16:50 -17:00 閉会式 【第 1 室】

司会：工藤 泰三（名古屋学院大学）

閉会挨拶：高橋 美由紀

（中部支部副支部長・愛知教育大学）

.....

17:30 – 懇親会 【TT" a Little Knowledge Store（星が丘テラス内）】

発表概要

第1室 (417 教室)

(1) 小中学生の英語受容語彙サイズの発達：音声語彙と文字語彙の比較と関連性【研究発表】

江口 朗子（立命館大学）

語彙知識は外国語学習において重要な要素である。小・中学校の各学習指導要領にも小中接続を前提とした学習すべき語彙サイズが示されており、この実現には児童生徒の習得の実態調査が必要である。本研究では、公立の小学5年生から中学2年生までの計424名を対象に、小・中学校の検定教科書で使用する英単語の頻度（Average Reduced Frequency）に基づいて作成された小学生版と中学生版の各音声語彙サイズテスト（L版）と文字語彙サイズ（R版）を用いて、音声語彙と文字語彙の違いや関連性に焦点をあてて調査した。学年間での横断分析の結果をまとめると次の通りである。音声語彙・文字語彙ともに学年間で伸びていた。小5から中2のいずれの学年でも音声語彙の方が文字語彙よりも有意に大きかった。音声語彙と文字語彙との間には、小学生は中程度、中学生は強い相関があった。発表では、これらの結果について、学習指導要領と第二言語習得の観点から考察をする。

(2) 生成AIを使った（疑似）学習者作文コーパス作成の試み【研究発表】

今井 新悟（合同会社 Logos）

学習者コーパスの構築には膨大な時間と予算がかかり、特に誤りを含む、レベル別の多様な作文を蓄積するためには大規模な調査や人手作業が必要となる。しかし、こうした負担の大きさが学習者コーパスの拡充を困難なものとしている。I-JAS はそのようにして作られた大規模な学習者コーパスである。対して、本研究では、生成AIを活用して学習者作文コーパスを疑似的に効率的に作成する可能性を探った。具体的には、1）学習者のレベルに応じた誤用を誘発できるか 2）生成された作文をさらに異なるモデルのAIを用いて評価し、期待されるレベルと判定が一致するかの検証を行い、本手法の有用性を確認した。本研究は、限られた人的・時間的・予算的リソースの中で学習者コーパスを疑似的に構築する可能性を提案する。将来的にはこれら作文を多数格納したコーパスへの発展が期待できる。

第2室 (416 教室)

(1) 学習者コーパスを用いた英語自他交替動詞の受動態に関する誤用分析【研究発表】

加藤 琢也（名古屋大学大学院生）

本研究は、英語学習者の受動態誤用に対する無生物主語の影響の検証を目的とする。これまでの説では、目的語が主語へ移動する過程の過剰適用が誤用を引き起こすとするNP移動分析と、行為者の概念化が誤用に影響を与えるとするCA分析がある。いずれの説も目的語の主語化や行為者の有無を要因としている。

本研究では、受動態誤用への影響が指摘される無生物主語に着目し両説の検証を行う。学習者コーパスICNALEのWritten EssaysのうちWE_2_Classified_Mergedデータ（82ファイル・67,299語）

を分析対象に、自他交替が可能な動詞と不可能な動詞における無生物主語の受動態誤用への影響を検証した。統計分析には回帰分析を用い、全動詞を対象に受動態誤用率を目的変数として無生物主語使用率の影響を検討し、結果を各説の主張と照らし合わせた。さらに動詞タイプ別にも分析を行い、サンプル数の制約から回帰に代えて相関分析を実施したところ、いずれも無生物主語使用と誤用率の有意な関連が確認された。

(2) ライティングとシャドーイングを融合した自主学习支援ウェブアプリの開発【実践報告】

古泉 隆（名古屋大学）

従来のライティング活動は、文法や表現などに関する訂正フィードバックを教師に依存することが多く、また改善内容を定着させるための機会も限られている。本アプリでは OpenAI を活用して、学習者の英作文に自動訂正フィードバックを行い、リライト後の文章を音声化してシャドーイング練習に活用することで、ライティングから改善内容の定着までを自律的に行える仕組みを構築した。本アプリでは、GPT-4o モデルを利用し、プロンプトを API 経由で送信して学習者の作文を自動修正する。修正結果は、修正箇所とその理由を一覧で提示する。学習者がリライトした文章は GPT-4o mini TTS モデルにより音声化される。このモデルは「話し方」のプロンプト指示が可能であり、本アプリでは学習者にとって聞き取りやすく練習に適した話し方となるように指示を与えている。また、話速は常時調整可能で、自分にあった速度でシャドーイング練習に取り組むことができる。

(3) 小学校外国語科における学習者中心の学びを支えるための指導：「話す（発表）」の活動におけるタブレット端末とワークシート（紙）を活用して【研究発表】

高橋 美由紀（愛知教育大学）

AI と自動翻訳の発達は、英語教育に大きな影響をもたらしている。本発表では、小学校外国語科におけるデジタルツールと紙の教材を組み合わせたアプローチが学習者にどのような影響を及ぼすかについて、小学校外国語科では 2024 年度より先行導入されている学習者用デジタル教科書及び、自動翻訳や google 等の支援アプリ等のタブレット端末の活用と、筆者が作成した紙のワークシートを活用して、「話す（発表）」活動を行った事例から、「学習者中心の学びを支える指導」について述べる。はじめに、デジタルと紙のそれぞれの利点と課題を述べる。次に、筆者が作成したワークシートを活用した指導とデジタル教科書での指導について述べる。最後に、「話す（発表）」の言語活動の様子と児童の振り返りやアンケート調査の結果から、学習者中心の学びを支えるための指導の成果として、以下のような結果が得られたことを述べる。

①児童自身が自分に合った方法で、タブレット端末と紙のワークシートを使い分けていたこと、
②個別最適な学びにより、児童が主体的に学び「話す（発表）」の活動への意欲や自信につながっただけでなく、児童のパフォーマンス能力を高めることができたこと。

.....

～ ご 案 内 ～

賛助会員出展 【419 教室】

出展会場で出展していただきます。ぜひお立ち寄りください。

- 株式会社エル・インターフェース (<https://www.supereigo.com>)
- 株式会社金星堂 (<https://www.kinsei-do.co.jp/>)
- 株式会社アルクエデュケーション (<https://www.alc-education.co.jp/academic/>)
- 株式会社桐原書店 (<https://kirihara.sakura.ne.jp/information/aees-ne/>)
- 株式会社教育測定研究所 (<https://www.jiem.co.jp/>)
- 株式会社 EnglishCentral JAPAN (<https://ja.englishcentral.com/browse/videos>)
- iJapan 株式会社
(<https://www.igroupjapan.com/language-testing-international/about-actfl-iti-test/>)

昼食

各自ご持参いただくか、近隣の店舗をご利用ください。ご持参の場合は、会場にてランチョンセミナーにご参加いただきながらお召し上がりいただくこともできます。

懇親会

- TT" a Little Knowledge Store (星が丘テラス内、「トド」と読みます)で行います。ぜひご参加ください。
- 会費はお1人 5,000 円、学生会員および大学学部生は 3,000 円です。当日お支払いいただきますので、できるだけお釣りのないようにご用意ください。
- 大会参加お申し込みの際に、懇親会の参加有無についてもご入力ください。

大会参加のご案内

大会参加申込用 QR コード



- ご参加には事前申し込みが必要です。5月20日までに Google フォームよりお申し込みください。URL は <https://forms.gle/2FWTAvQzkK1ua29AA> です (右の QR コードもご利用いただけます)。
- 非会員の方は資料代として 1,000 円を当日受付の際にお支払いください。会員および大学学部生は無料です。
- 発表者の方も参加申し込みをお願いいたします。
- お子様連れでご参加の方のために家族休憩室を設けます (シッターの用意はありません)。ご利用の方は受付にてお申し出ください。
- 感染症の予防にご留意ください。発熱・咳などの症状がある方は来場をお控えください。
- 発表者の方は、発表開始 5 分前までにご自身の発表会場にお越しください。また、PC はご自身のものをお持ちください。

新規ご入会案内

- 会員になられますと、LET 全国研究大会（年 1 回）や支部研究大会（年 2 回）での研究発表・実践報告、紀要への投稿などをしていただくことができます。
- LET 本部サイト（下記）にて入会登録をしていただくと仮会員になります。仮会員になられましたら、後日、年会費をご請求申し上げます。なお、年会費は次の通りです。

個人会員：年額 6,000 円 / 学生会員：年額 3,000 円 / 団体会員：年額 6,000 円

- 年会費をお支払いいただきますと、正会員になります（3 ヶ月以内にお手続きをお願いします）。

会員登録、会員情報の更新は

LET 本部サイト（<https://www.j-let.org/>）からお願いします →



～ 会場へのアクセス ～

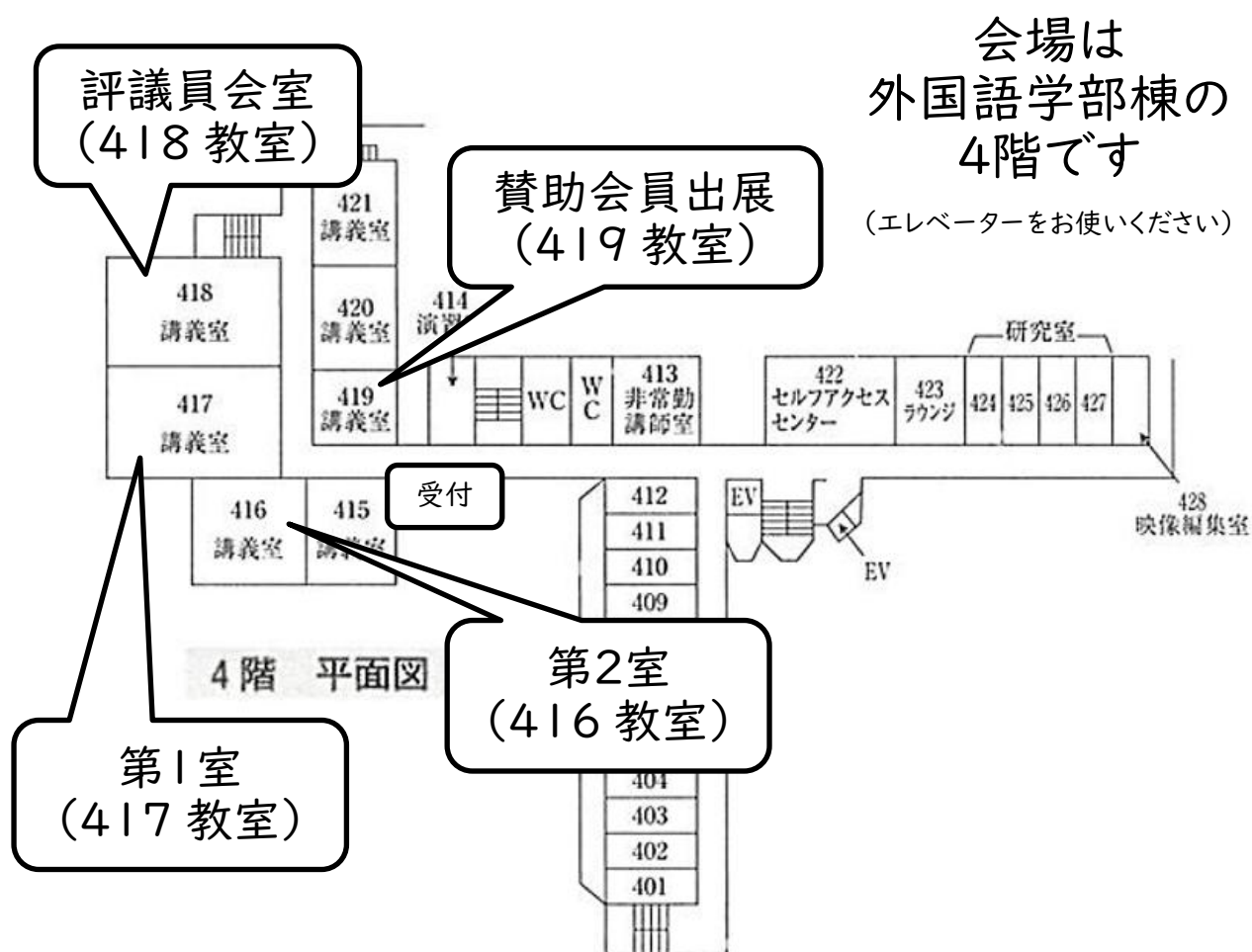
公共交通機関をご利用ください

名古屋市営地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車 6 番出口から徒歩約 5 分

- 6 番出口（A）の階段を上がった左の坂を直進 → 星ヶ丘自動車学校のある交差点を左折
→ B 地点の右側にある正門のアーチをくぐる → キャンパス内の広場を直進
→ 突き当たりの建物が会場（外国語学部棟）です。



～ 会場内案内図 ～



＜メモにお使いください＞

